

2023(令和5)年度財務報告書



総合研究大学院大学財務課

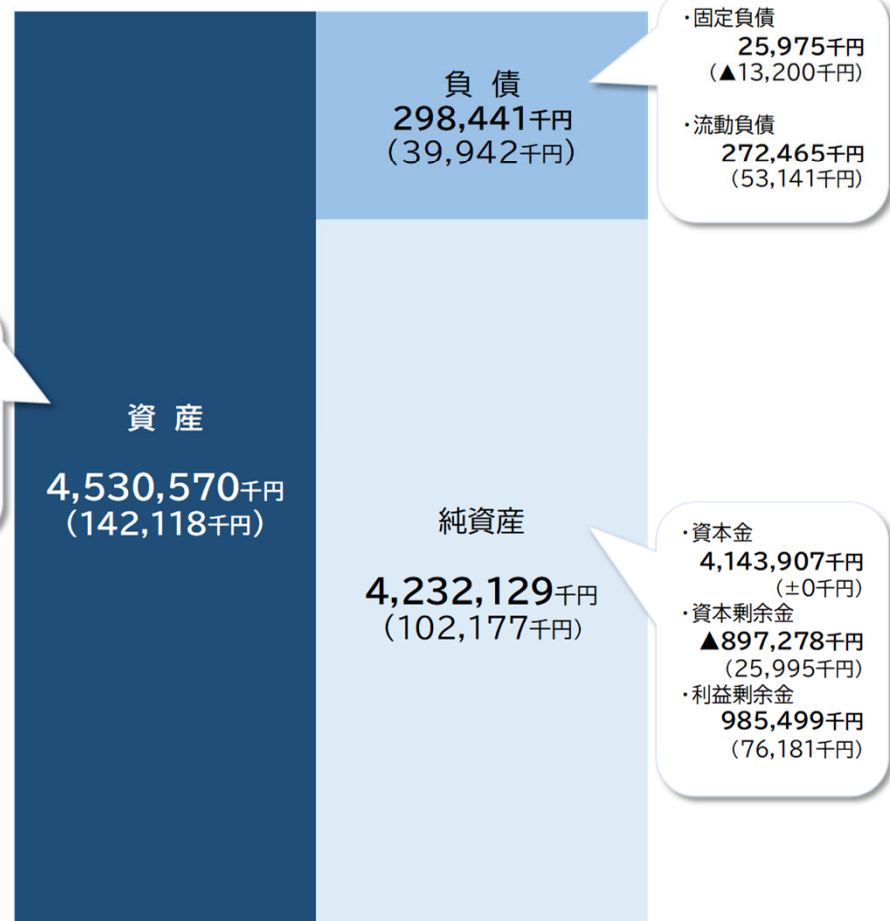
目次

I.2023(令和5)年度財務諸表	
1. 2023(令和5)年度決算の概要	… 3
2. 貸借対照表	… 4
貸借対照表の主な増減要因	… 5
3. 損益計算書	… 6
損益計算書の主な増減要因	… 7
4. キャッシュ・フロー計算書	… 8
II.2023(令和5)年度決算からみる本学の学生支援の状況について	
1. 本学の学生支援の状況(概要)	…10
① 入学料及び授業料免除	…11
② SOKENDAI 特別研究員制度	…12
③ SOKENDAI 研究派遣プログラム	…13
2. 本学以外の機関による主な経済的支援の状況	…14
3. 本学学生・修了生の主な各種受賞情報	…15
III.その他の財務データ	
1. 運営費交付金及び自己収入の推移	…18
2. 自己収入の推移	…19
3. 外部資金等の推移	…20
4. 科学研究費補助金の受入推移	…21

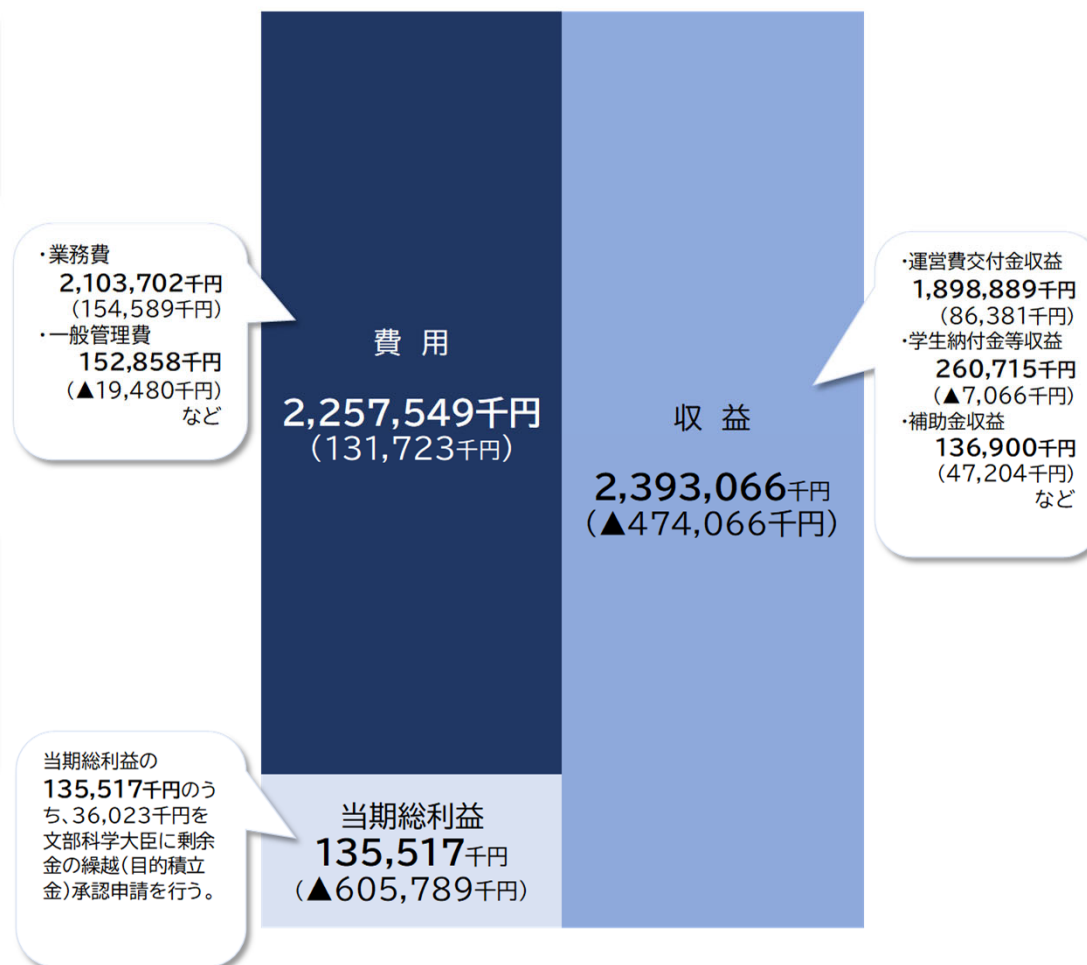
I.2023(令和5)年度財務諸表

1. 2023(令和5)年度決算の概要

貸借対照表の概略
()は対前年度増△減額



損益計算書の概略
()は対前年度増△減額



財務に関する情報は、本学Webページ
(<https://www.soken.ac.jp/outline/disclosure/financial/>)を参照。

2. 貸借対照表

本学の会計年度の期末における財政状態を明らかにするため、すべての資産、負債及び純資産を記載したものである。

(単位:千円)

区 分	令和4年度 A	令和5年度 B	対前年度 増△減額 B-A	区 分	令和4年度 A	令和5年度 B	対前年度 増△減額 B-A
資産の部				負債の部			
有形固定資産	3,852,257	3,887,253	34,996	固定負債	39,175	25,975	▲ 13,200
土地	2,130,000	2,130,000	0	長期繰延補助金等	28,047	23,297	▲ 4,750
建物	1,158,688	1,208,912	① 50,224	長期未払金	11,128	2,677	▲ 8,451
構築物	33,770	30,167	▲ 3,603	流動負債	219,324	272,465	53,141
工具器具備品	236,139	224,599	▲ 11,540	運営費交付金債務	27,689	12,398	▲ 15,291
図書	291,877	291,683	▲ 194	寄附金債務	22,099	44,227	③ 22,128
車両運搬具	429	0	▲ 429	前受金	5,983	7,948	1,965
建設仮勘定	1,353	1,890	537	預り金等	30,521	59,443	④ 28,922
無形固定資産	29,494	21,121	▲ 8,373	未払金等	133,027	148,444	15,417
投資その他の資産	79,720	164,361	84,641				
減価償却引当特定資産	79,700	164,341	② 84,641				
その他の投資その他の資産	20	20	0				
固定資産合計	3,961,472	4,072,737	111,265	負債合計	258,499	298,441	39,942
現金及び預金	395,156	425,235	30,079	純資産の部			
未収入金	18,394	17,157	▲ 1,237	資本金(政府出資金)	4,143,907	4,143,907	0
たな卸資産	54	61	7	資本剰余金	▲ 923,273	▲ 897,278	⑤ 25,995
前渡金	7,545	8,757	1,212	利益剰余金	909,318	985,499	⑥ 76,181
前払費用	5,830	6,621	791	(うち当期総利益または総損失)	741,306	135,517	▲ 605,789
流動資産合計	426,980	457,833	30,853	純資産合計	4,129,952	4,232,129	102,177
資産合計 (総資産)	4,388,452	4,530,570	142,118	負債純資産合計	4,388,452	4,530,570	142,118

※ 金額は千円単位未満を切り捨てているので、計は必ずしも一致しない。

貸借対照表の主な増減要因

資産の部

① 建物:対前年度 50,224千円増

前中期目標期間繰越積立金や施設費を財源として、以下の施設の改修を行ったことにより84,716千円増加した一方、既存建物等に係る令和5年度の減価償却34,492千円により対前年度50,224千円増加した。

・葉山キャンパス統合進化科学研究センター棟のインフラ長寿命化工事

令和5年度は統合進化科学研究センター棟について屋根・外壁・建具等の外部改修工事及び太陽光発電設備の更新を実施した。

内 容	取得価額
外部改修(屋根・外壁・建具等)工事	54,227千円
太陽光発電設備	43,410千円

・図書館・共通棟別館照明器具LED化改修工事

電気料の節減と省エネ化の推進及び中期的なスパンでのランニングコストの削減を目的として、図書館および共通棟別館の照明器具についてLED化改修工事を実施した。

内 容	取得価額
照明器具LED化改修工事	10,406千円

② 減価償却引当特定資産: 84,641千円増

「国立大学法人会計基準」の改正により、令和4年度から新たに「減価償却引当特定資産」という勘定科目が設けられ、施設設備の更新を行うための資金を法人の判断で計画的ができるようになった。令和5年度は84,641千円を繰入した結果、減価償却引当特定資産の残高は164,341千円となった。

負債の部

③ 寄附金債務:対前年度比 22,128千円増

令和5年度は、統合進化科学研究センターの教員による研究助成金の獲得額及びその未執行額が増加したことが主な要因となり、前年度と比べて22,128千円増加した。

④ 預り金等:対前年度比 28,922千円増

令和5年度は、統合進化科学研究センターの教員による科学研究費助成金の獲得額及びその未執行額が増加したことが主な要因となり、前年度と比べて28,922千円増加した。

純資産の部

⑤ 資本剰余金:対前年度比 25,995千円増

前中期目標期間繰越積立金・施設費を財源として取得した固定資産により105,025千円増加した一方、令和5年度の減価償却79,030千円により対前年度25,995千円増加した。

⑥ 利益剰余金:対前年度比 76,181千円増

令和5年度当期総利益として135,517千円を計上した一方で前中期目標期間繰越積立金を59,336千円取り崩したため、前年度と比べて76,181千円増加した。

当期総利益135,517千円のうち36,023千円について、文部科学大臣に対し剰余金の繰越承認申請を行う。

3. 損益計算書

本学の運営状態を明らかにすることを目的に、一会計期間に属する本学のすべての費用とこれに対応するすべての収益を記載して、当期総利益(又は当期総損失)を表示したものである。

(単位:千円)

区 分	令和4年度 A	令和5年度 B	対前年度 増△減額 B-A	区 分	令和4年度 A	令和5年度 B	対前年度 増△減額 B-A
業務費	1,949,113	2,103,702	154,589	運営費交付金収益	1,812,508	1,898,889	② 86,381
教育経費	980,836	1,040,571	① 59,735	学生納付金等収益	267,781	260,715	▲ 7,066
研究経費	66,373	81,292	14,919	受託研究等収益	11,470	40,571	29,101
教育研究支援経費	150,142	166,910	16,768	寄附金収益	9,739	12,408	2,669
受託研究費・共同研究費・受託事業費	10,013	38,022	28,009	補助金等収益	89,696	136,900	③ 47,204
人件費	741,745	776,902	35,157	財務収益・雑益	23,042	34,968	11,926
一般管理費	172,338	152,858	▲ 19,480				
財務費用・雑損	851	642	▲ 209				
経常費用(a)	2,122,303	2,257,203	134,900	経常収益(b)	2,214,240	2,384,455	170,215
経常利益(b)-(a)	91,936	127,252	35,316				
臨時損失	3,522	345	▲ 3,177	臨時利益	612,058	0	④ ▲ 612,058
当期純利益(又は当期純損失)	700,472	126,906	▲ 573,566	前中期目標期間目的積立金取崩額	40,834	8,611	▲ 32,223
当期総利益(又は当期総損失)	741,306	135,517	▲ 605,789				

※ 金額は千円単位未満を切り捨てているので、計は必ずしも一致しない。

損益計算書の主な増減要因

経常費用

① 教育経費:対前年度比 59,735千円増

教育経費が前年度と比べて増加した主な要因は以下のとおり

・奨学費の増加

運営費交付金の追加配分も含めた授業料免除枠の拡大により授業料免除許可者及び免除実績額が大幅に伸びたこと、大学フェローシップ創設支援事業及び次世代研究者挑戦的プログラムの配分額増加によって学生への支援額が増加したことより奨学費が増加した。

(学生への経済的支援制度の詳細は10ページ参照)

・新型コロナウイルス感染拡大防止措置の緩和による事業の活性化

新型コロナウイルス感染拡大防止措置が緩和されたことにより、SOKENDAI研究派遣プログラム等の事業費が増加した。

【参考】 学生一人あたりの教育経費 2,068千円(対前年度193千円増)

(注1)学生一人あたりの損益計算書に基づく教育経費。教育活動の活発さを判断する一指標。

(注2)国立大学法人平均は、304千円(対前年度1千円増)であり、本学は、国立大学機構(3機構)を含む国立大学法人(82法人)中1位。

経常収益

② 運営費交付金収益:対前年度比 86,381千円増

運営費交付金収益が前年度と比べて増加した主な要因は以下のとおり

・授業料免除枠の拡大

令和5年度運営費交付金は令和4年度と比べて授業料免除枠が拡大しており、併せて収益化額も増加した。

・ミッション実現加速化経費措置額の増加

令和5年度においては以下のミッション実現加速化経費が増加しており、併せて収益化額も増加した。

区 分	措置額
共通政策課題分・基盤的設備整備分(※)	51,300千円
学術情報流通活性化分	9,850千円

(※)措置額により「超解像モードを有する共焦点レーザースキャン顕微鏡システム」の更新を行った。

③ 補助金等収益:対前年度比 47,204千円増

大学フェローシップ創設支援事業及び次世代研究者挑戦的プログラムの交付額が前年度と比べて増加したことにより補助金収益も増加した。

④ 臨時利益:対前年度比▲612,058千円減

令和4年度は、国立大学法人会計基準の改訂に伴う資産見返負債勘定の廃止に伴い、資産見返補助金等を除く全ての残高を臨時利益に振り替えたが、令和5年度は当該会計処理がなかったため、対前年度比612,058千円減少した。

4. キャッシュ・フロー計算書

本学の一会計期間におけるキャッシュ(資金)・フロー(流れ)の状況を、資金の受払という事実に着目して、一定の活動区分にて表示したものである。

(単位:千円)

区 分	令和4年度 A	令和5年度 B	対前年度 増△減額 B-A
業務活動によるキャッシュ・フロー	234,689	247,255	12,566
原材料、商品又はサービスの購入による支出	▲ 1,050,187	▲ 1,167,523	
人件費支出	▲ 720,803	▲ 786,285	
その他支出	▲ 143,366	▲ 138,099	
運営費交付金収入	1,840,198	1,883,598	
学生納付金等収入	180,152	176,122	
受託研究・受託事業等収入	15,091	43,586	
受託事業等の精算による返還金の支出	▲ 6,077	▲ 2,814	
補助金等収入	92,998	150,910	
補助金等の精算による返還金の支出	▲ 1,584	▲ 2,702	
寄附金収入	7,372	31,821	
その他収入	21,019	58,639	
国庫納付金の支払額	▲ 123	-	
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 247,763	▲ 207,087	40,676
定期預金の預入による支出	▲ 930,000	▲ 1,050,000	
定期預金の払戻による収入	930,000	1,050,000	
有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出	▲ 175,071	▲ 176,753	
減価償却引当特定資産の繰入による支出	▲ 79,700	▲ 84,641	
施設費による収入	7,000	54,300	
利息及び配当金の受領額	7	8	
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 9,660	▲ 10,088	▲ 428
リース債務の返済による支出	▲ 9,025	▲ 9,685	
利息の支払額	▲ 634	▲ 403	
資金増加額(又は減少額)	▲ 22,733	30,079	52,812
資金期首残高	417,890	395,156	▲ 22,734
資金期末残高	395,156	425,235	30,079

(1) 業務活動によるキャッシュ・フロー

本学における通常の業務実施に係る資金の状態を示している。
令和5年度は運営費交付金収入、補助金等収入、寄附金収入等が増加したことにより、入金額が増加した。

(2) 投資活動によるキャッシュ・フロー

本学における資産運用または固定資産の取得など将来に向けた教育研究基盤を確立するための投資活動に係る資金の状態を示している。
令和5年度は「施設費による収入」が増加したため、入金額が増加した。

(3) 財務活動によるキャッシュ・フロー

本学におけるリース債務の返済など資金調達に係る資金の状態を示している。
令和5年度はリース債務の返済額の増加により、前年度と比べて出金額が増加した。

(4) 資金期末残高

業務活動によるキャッシュ・フローによる入金額が増加した一方で、投資活動によるキャッシュ・フロー入金額が増加したため、令和5年度資金期末残高は前年度と比べて増加した。

※金額は千円単位未満を切り捨てていますので、計は必ずしも一致しません。

Ⅱ.2023(令和5)年度決算からみる 本学の学生支援の状況について

1. 本学の学生支援の状況(概要)

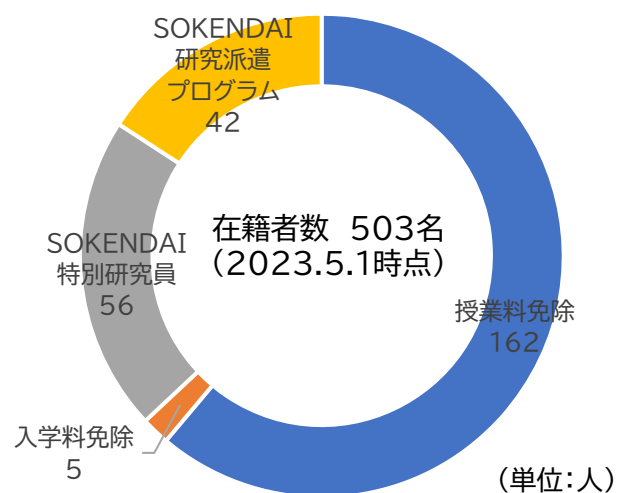
本学では授業料免除制度、SOKENDAI特別研究員制度等により、優秀な学生の研究活動を経済的に手厚くサポートしています。

本学の主な学生支援(経済的支援)制度(各制度の詳細は次ページ以降)

- ① 入学料及び授業料免除
- ② SOKENDAI特別研究員制度
- ③ SOKENDAI研究派遣プログラム

【上記経済的支援制度利用者数(のべ数)】

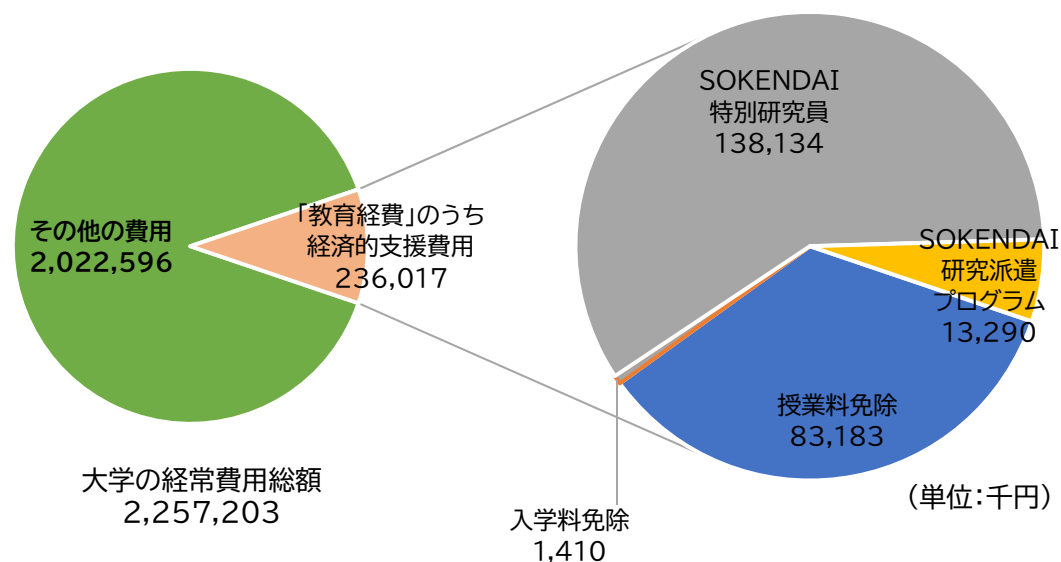
在籍者の約5割以上の265人が本学の制度を利用
(国費外国人留学生制度、JSPS特別研究員制度等を含めると約10割以上(詳細は14ページ)が該当する。)



※授業料免除は前期の免除者数を計上

【上記経済的支援制度にかかる費用額】

本学の費用全体の約1割以上を学生の経済的支援費用に充当



① 入学料及び授業料免除

本学では、経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる者を対象に、修学上の経済的支援として、入学料・授業料の免除を実施している。授業料の免除が許可された者については、納付すべき授業料の全額又は半額が免除される。

(単位:人、千円)

免除区分	入学料				授業料			
	計	人数 前期	人数 後期	免除額	計	人数 前期	人数 後期	免除額
一般枠	5	4	1	1,410	192	96	96	48,088
全額	5	4	1	1,410	167	85	82	44,739
半額	-	-	-	-	25	11	14	3,349
SOKENDAI特別研究員(分野型) (全額)	-	-	-	-	119	60	59	31,880
コロナ特別措置の在学期間延長 (授業料不徴収)	-	-	-	-	12	6	6	3,215
計	5	4	1	1,410	323	162	161	83,183

○ 入学料免除は、入学料収入予定額の4.0%相当の5名:1,410千円の免除を実施

○ 授業料免除は、実質的な対象者の約4割(※)について総額79,968千円の免除を実施

(※)2023年5月1日時点の在学生数は、503名(うち国費留学生57名、休学者29名)であり、実質的な対象者は417名(503-(57+29))

よって、対象者の約4割を免除(前期免除者156/申請対象者417)

○ 本学独自の制度として、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う在学期間延長が認められた期間にかかる授業料不徴収の特別措置:3,215千円を実施。

② SOKENDAI 特別研究員制度

本制度は、国立研究開発法人科学技術振興機構「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」、「次世代研究者挑戦的研究プログラム」事業の助成を活用し、基礎研究・学術研究の将来を担う人材を育成するため、下記の2つのカテゴリーにおいて、特に優秀な学生をSOKENDAI特別研究員として採用し、**博士後期課程相当の3年間にわたり生活費相当額及び研究費を支給するとともに、学位取得後のキャリアパスの形成を支援する制度**である。

【分野型】

情報・AI分野及び大学共同利用機関等が保有する最先端の研究施設を利用した「大規模先端科学」分野の研究を行う学生を支援するもの。

【採用者】 2023年度 36名

【一人あたりの支援額】

生活費相当額：月額19万円(年間228万円)
研 究 費：年間22万円

【挑戦型】

既存の研究分野や研究科・専攻等の組織の枠にとらわれない情報・AI分野及び主体的に行う学生を支援するもの。

【採用者】 2023年度 20名

【一人あたりの支援額】

生活費相当額：月額19万円(年間228万円)
研 究 費：年間40万円

○ 分野型および挑戦型の合計56名に対して

生活費相当額として総額123,120千円を支援

○ 学生全体の11%を採用(56/503)

○ そのほか研究費として総額15,014千円を併せて支援

【採用実績(延べ人数)】

年度	分野型	挑戦型
2021	9	10
2022	24	16
2023	36	20



③ SOKENDAI 研究派遣プログラム

本事業は、本学の教育理念である「高い専門性」「広い視野」「国際的な通用性」を持つ研究者人材の育成を推進するため、海外での短期の研究活動や、将来のキャリア構築につながる国内外での長期の共同研究等に主体的に取り組む学生に対して必要な経費を支援することを目的としている。令和5年度は、下記のとおり、学生が主体的に行う海外での短期の研究活動及び将来のキャリア形成につながる国内外での長期の研究活動を重点的に支援した。

採択された学生の研究概要は、本学Webページ(<https://www.soken.ac.jp/student-research/index.html>)参照。

○ 2023年度は計42名(在学生の約8%(42/503))を派遣
総額として13,290千円を支援

【SOKENDAI 研究派遣プログラム実施状況】

	【区分①】 海 外 短 期	【区分②】 海 外 長 期	【区分③】 国 内 長 期
活 動 目 的	短期の共同研究・調査活動、 学会・研究集会での発表、 海外の研究室訪問等	長期の共同研究・調査活動等	
派 遣 先	国 外		国 内
派 遣 期 間	4週間未満	4週間以上	
助 成 額	1件あたり上限40万円	1件あたり上限100万円	
派 遣 学 生 数	28名	11名	3名

2. 本学以外の機関による主な経済的支援の状況

①国費外国人留学生制度について

海外から優秀な留学生を受け入れることにより、国際交流・友好親善の促進及び諸外国の人材育成に資するとともに、我が国における大学等の国際化の進展、それを通じた教育研究力の向上、ひいては社会全体の国際化・活性化に貢献し、我が国と世界の発展に寄与することを目的とする制度である。月額14万円程度の奨学金等が支給され、本学からは2023年度において、57名が採用されている(2023.5.1時点)。

②【日本学術振興会(JSPS)】特別研究員制度について

我が国の優れた若手研究者に対して、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与え、研究者の養成・確保を図る制度で、月額20万円の研究奨励金(生活費相当)および研究費支給され、本学からは2023年度において、40名が採用されている。

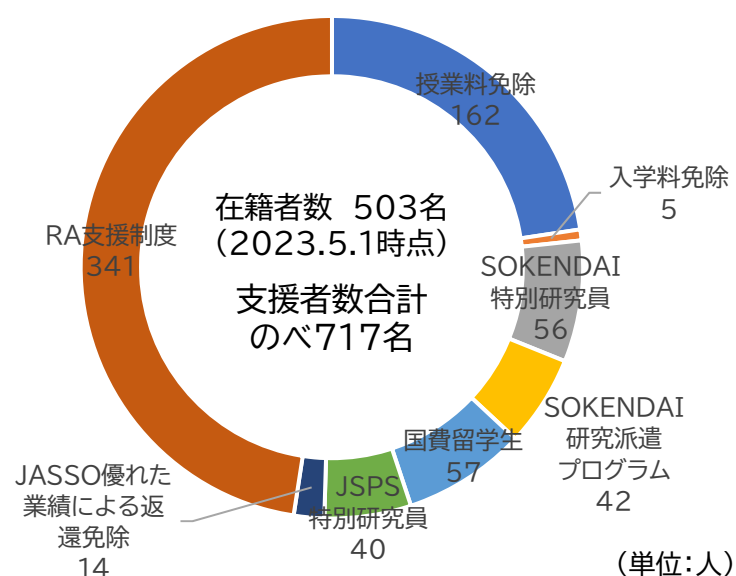
③【日本学生支援機構(JASSO)】特に優れた業績による返還免除制度について

大学院で第一種奨学金の貸与を受けた学生であって、貸与期間中に特に優れた業績を挙げた者として日本学生支援機構が認定した人を対象に、その奨学金の全額または半額を返還免除する制度である。貸与終了時に大学に申請し、大学長から推薦された人を対象として、業績優秀者奨学金返還免除認定委員会の審議を経て決定される。本学からは2023年度において14名が返還免除となった。

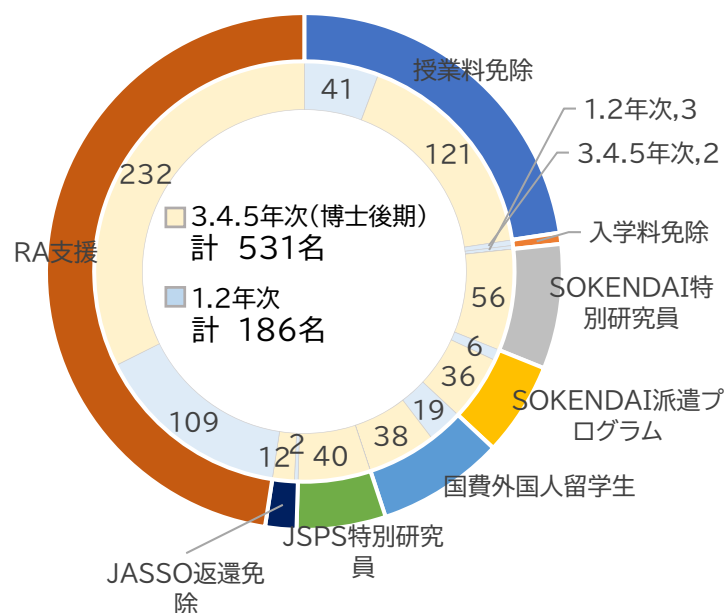
④基盤機関等によるRA支援制度について

リサーチ・アシスタント(以下RA)とは、優れた大学院学生が、研究補助者として、研究プロジェクト等に参画する制度で、学術研究の一層の推進に資する研究支援体制の充実・強化ならびに若手研究者の養成・確保を促進するために設けられ、研究プロジェクトで推進されている高度な実験、研究論文の作成や発表などの研究活動に必要な事項に対する補助業務を行う。RAに従事した場合、本業務には、対価として給与が支給されるため、経済的支援にもなっており、RAに準ずる支援等も含め341名が利用している。

【経済的支援制度利用者数(のべ数)】



【年次別利用者数(のべ数)】



本学の学生支援制度に上記制度を加えると、合計でのべ717名が経済的支援を受けており、重複支援もあるため学生全体の10割以上となる。年次別では博士後期課程相当の学生に手厚い支援を実施。

3. 本学学生・修了生の主な各種受賞情報

	受 賞 名	専攻・コース 氏 名
第27回DNA複製・組換え・修復(3R)ワークショップ	 学生発表賞 Enhanced AID2-based protein knockdown systems for the analysis of biological pathways	遺伝学コース 嶋山 雄基
第61回日本生物物理学会年会	 学生発表賞  wwPDB Student Award Replication-dependent histone (Repli-Histo) labeling revealed that chromatin motion can determine DNA replication timing	遺伝学コース 南 克彦
第61回日本生物物理学会年会	 学生発表賞 リンカーヒストンH1はクロマチンドメインの液体状の「のり」として働く	遺伝学コース 島添 将誠
第61回日本生物物理学会年会	 若手招待講演賞  IUPAB student award クロマチンの高次構造はクロマチンの局所的な動きとクロマチンのかたさを制御する	遺伝学コース 飯田 史織
2023 AAPPS-DPP	 Poster Prize Progress in the development of a compact D-T neutron spectrometer based on a single-crystal chemical vapor deposition diamond stack for fusion plasma diagnostic	核融合科学コース Long Yong LIAO
日本動物学会中部支部大会	 最優秀口頭発表賞 イトヨにおける淡水適応を担う甲状腺機能調節の進化	遺伝学コース 神部 飛雄
第46回日本分子生物学会年会	 MBSJ2023 Award for EMBO Poster Clinic Targeted protein degradation with a single-chain antibody-based AID2 system	遺伝学コース ISLAM Moutushi
第46回日本分子生物学会年会	 MBSJ2023 Best Science Pitch Award Changes in the gut microbiome associated with domestication of mice	遺伝学コース Bhim Bahadur Biswa

3. 本学学生・修了生の主な各種受賞情報

受賞名		専攻・コース 氏名
プラズマ・核融合学会	第40回年会若手学会発表賞 LHDにおけるConvolutional Neural Networkを用いた 放射崩壊の予測・回避制御研究	核融合科学専攻 鈴木 優也
プラズマ・核融合学会	第40回年会若手学会発表賞 多重場特異値分解を用いた多成分乱流中のエネルギー伝達解析	核融合科学専攻 彌富 豪
第41回染色体ワークショップ・第22回核ダイナミクス研究会	学生優秀ポスター発表賞 Advancement in degron-based technologies for dissecting pathways involved in chromosome function	遺伝学コース 鳩山 雄基
静岡ライフサイエンスシンポジウム	最優秀ポスター発表賞 イトヨの淡水適応に伴う甲状腺機能の進化	遺伝学コース 神部 飛雄
2024年春季大会日本物理学会	学生優秀発表賞 時間依存密度汎関数理論を用いたタングステンに対する入射 水素イオンの中性化過程解析	核融合科学専攻 戸田 悠斗
2024年春季大会日本物理学会	学生優秀発表賞 LHDにおける電子スケール乱流の特性研究	核融合科学専攻 那須 達丈
井上科学振興財団	第40回井上研究奨励賞 ハエトリソウの配憶機構の解析	基礎生物学専攻 ※2020年9月修了 須田 啓
井上科学振興財団	第40回井上研究奨励賞 量子多体系、場の理論、ホログラフィー原理における エンタングルメント構造	素粒子原子核専攻 ※2023年3月修了 森 崇人

受賞情報は、本学Webページ(<https://www.soken.ac.jp/news/>)、総研大ニューズレター(<https://www.soken.ac.jp/outline/pr/publicity/newsletter/>)において掲載。

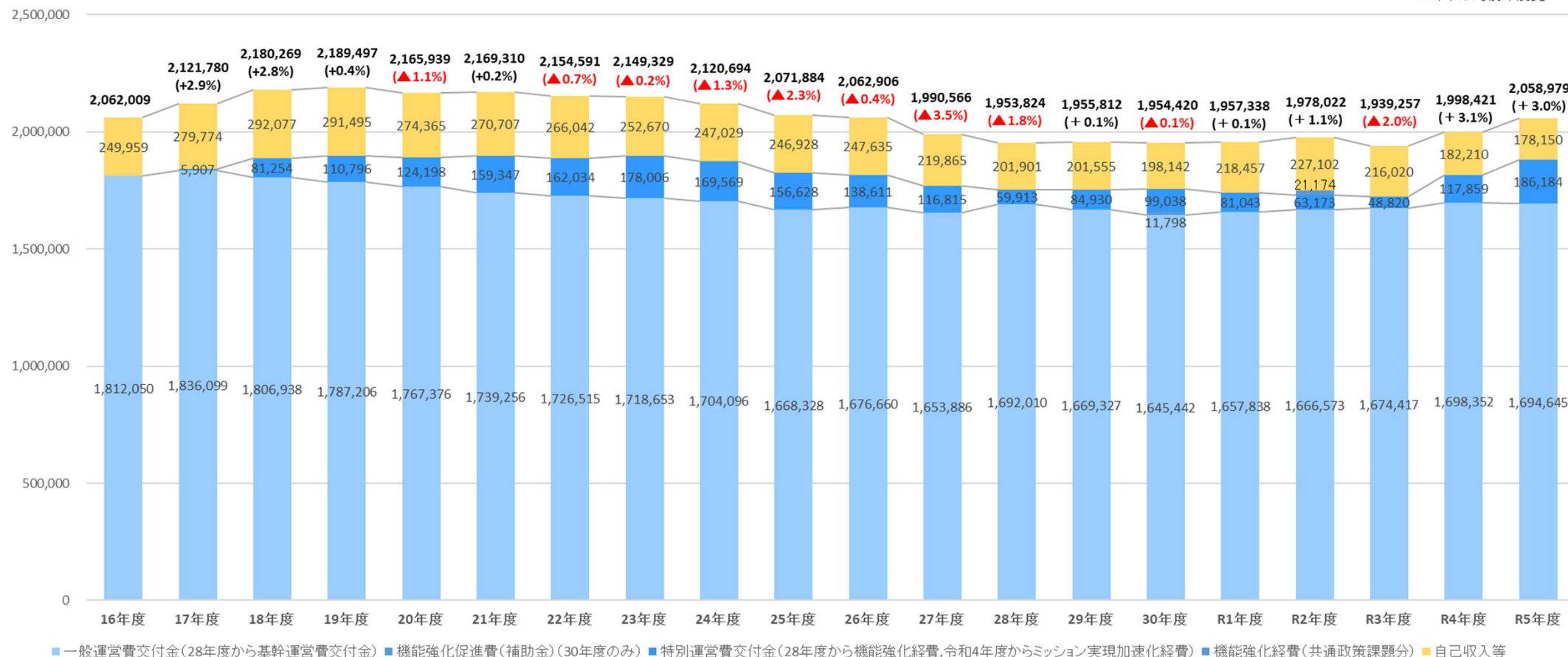
Ⅲ.その他の財務データ

1. 運営費交付金及び自己収入の推移

※ 特殊要因運営費交付金を除く

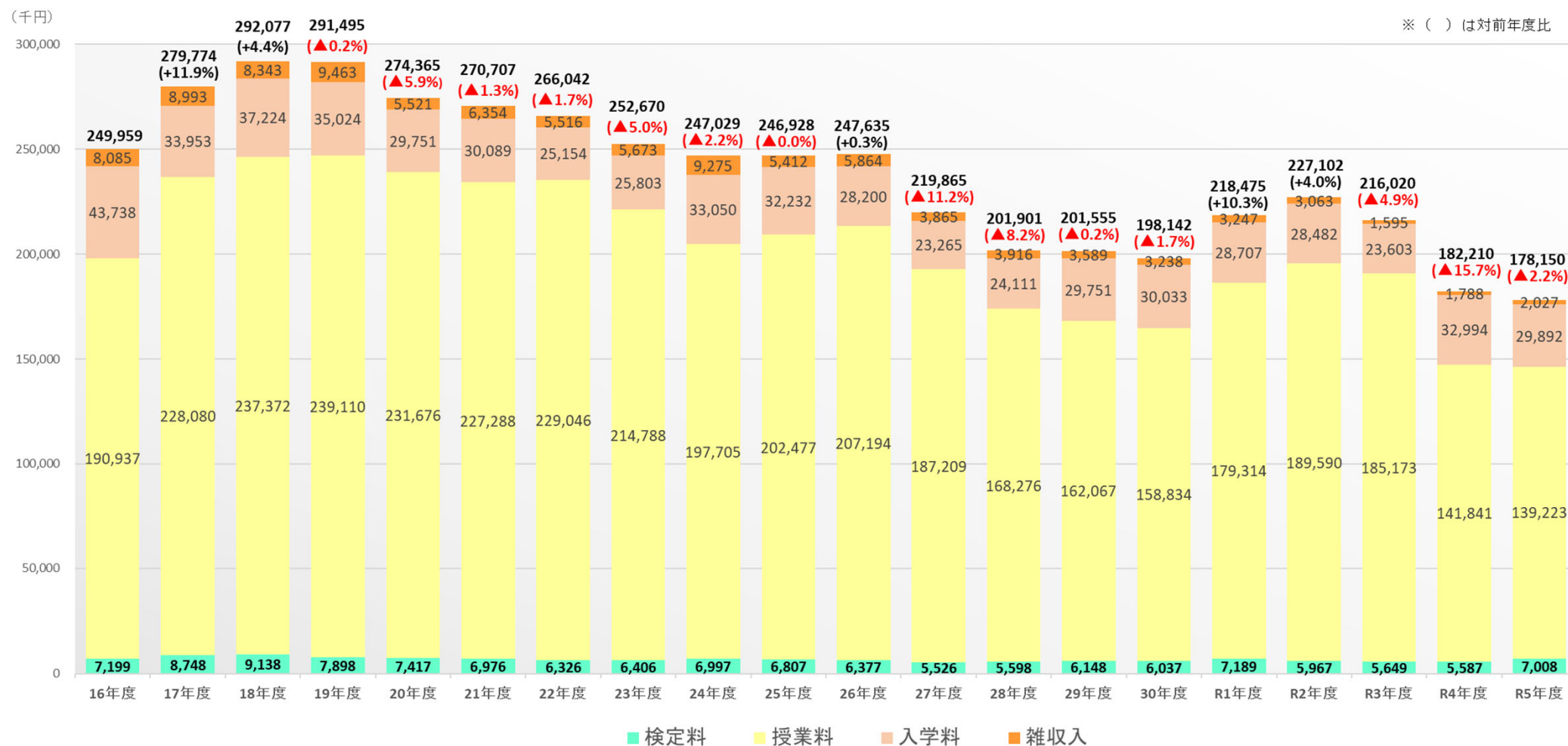
(千円)

※ ()は対前年度比



- 運営費交付金及び自己収入全体では、平成22年度以降減少傾向だが、令和5年度は増加
- 特別運営費交付金(令和4年度からミッション実現加速化経費)については、「基盤的设备等整備分」51,300千円及び「学術情報流通活性化分」9,850千円により令和5年度は対前年度比68,325千円(58.0%)増加

2. 自己収入の推移

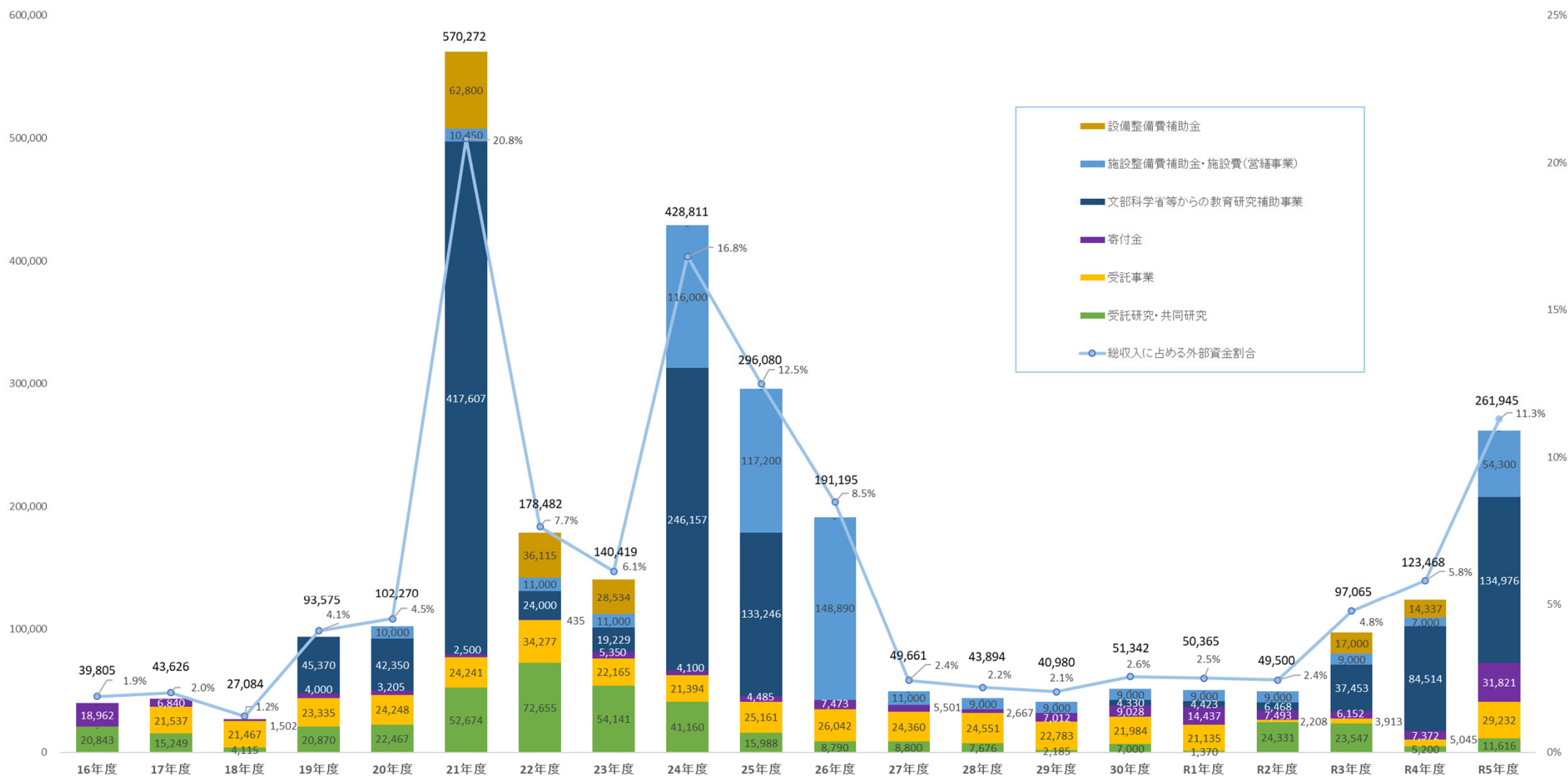


○ 自己収入全体では、19年度以降減少傾向

○ 授業料収入については、令和5年度は基幹運営費交付金で措置された授業料免除枠の増加に伴い、対前年度比▲2.2%減少

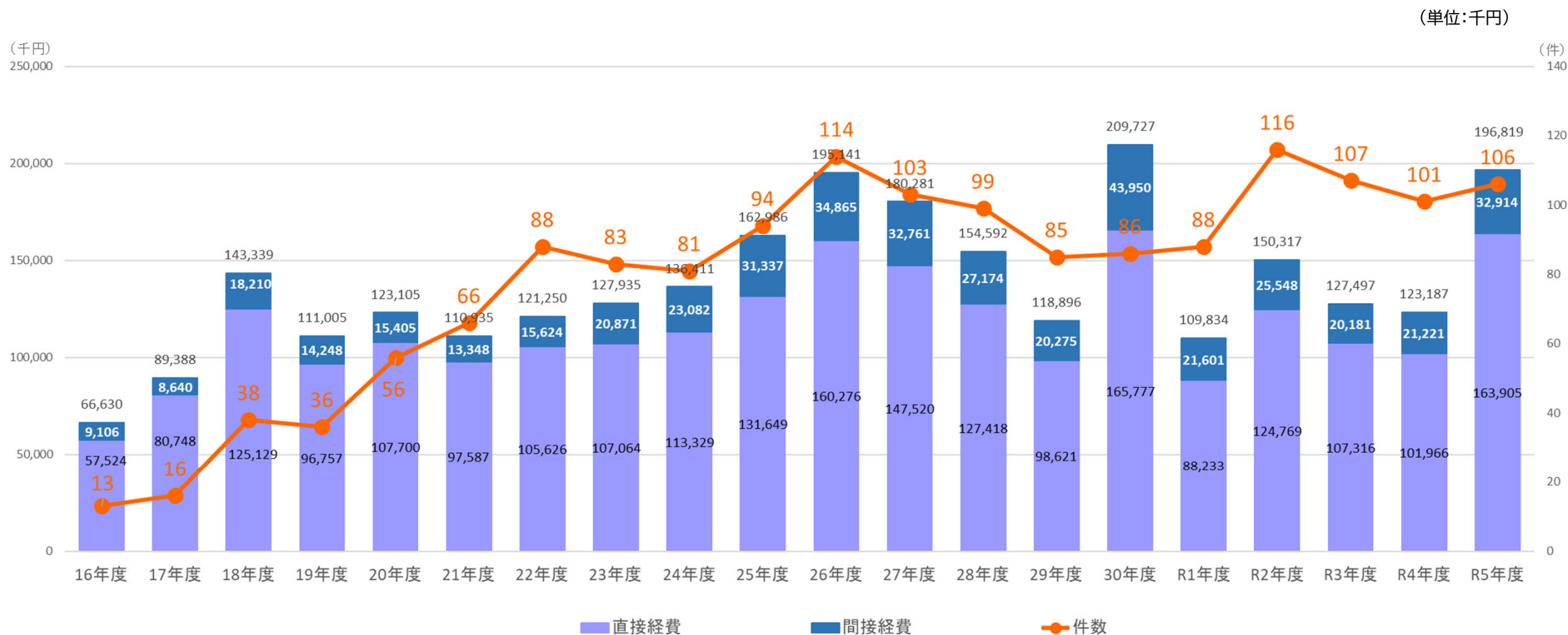
3. 外部資金等の推移

(単位:千円)



○ 令和5年度は、文部科学省等からの教育研究補助事業、寄附金および受託事業等の増加により対前年度比112.2%増加

4. 科学研究費補助金の受入推移



○ 科学研究費補助金は、独立行政法人日本学術振興会から研究者個人等に対して支給される補助金であるため、大学に交付されるものではないが、大学の研究基盤における大きな財源となっている。

○ 令和5年度の直接経費は、163,905千円で対前年度比60.7%増加
 なお、直接経費には、厚生労働科学研究費補助金9,493千円含む。